第1節　新たなネットワークづくりの潮流のなかで

大人も子どもも地域で育ちあう 若い世代の自由闊達な街づくり

上大岡若手サラリーマンの会

地域に根づいた昔ながらの家々と、いろいろな土地から移り住んできた人びとの街、上大岡に、昭和59年誕生した「上大岡若手サラリーマンの会」。20代後半から30代のサラリーマンを中心としたこの会の幅広い活動は、さまざまな方面から注目されている。

「3年前はちょうど、上大岡地区の再開発問題がもち上がっていたんです。僕らの仲間といえば、ほとんどが東京などからここへ来た新参者。でも、やはり自分たちが住む街ですから愛着があります。上大岡の再開発でも、何かできるんじゃないか。そう思って、トータルな地域づくりをめざすサラリーマンの会を発足させたわけです」

同会の代表として、こう語る篠崎正明さんもまた、都内へ通勤するサラリーマン。東京から移り住んだ〝新・住民〟でもある。

「地域づくりというのは、かざりがありません。この土地をより快適にするためには、将来を担う子どもたちの教育も考えなきゃならない。となると、子どもたちの遊び場にまで興味がわいてくる。私たちの活動に枠がないのも、こんな点からきているのでしょうね」

篠崎さんの言葉どおり、同会の活動は多種多様。地域の子どもの自主性を養うことを目的とした「上大岡日曜子ども会」「大岡川の再生をすすめる会」「川をきれいにする子ども会」などは、どれもサラリーマンの会会員がサポートしながら活動を進めているグループである。なかでも「日曜子ども会」の活動は、今までの子ども会にはない、画期的なものだ。杉の丸太や藁（わら）で竪穴式住居をつくり、そこに泊まりこんだり、自力で火を起こしたりして縄文時代の生活を体験したサバイバル、大岡川を昔のように魚とりや川遊びもできる憩いの空間として再生していこうと、子どもと大人が一緒になって企画し準備して大々的に行ったクリーンフェスティバルなど、多岐に及んでいる。

「日曜子ども会では、遊びの内容はすべて子どもが発案。次は何をして遊ぼうか考えているとき、川遊びという声があがったんです。それならまず川をきれいにしないとけがをするぞ、と大人たちがレクチャー。それがクリーンフェスティバル開催へとつながったわけです。自分たちでも何かができるんだ、ということが、子どもたち自身にも実感できた体験だったと思います。何といっても、子どもたちが最初の頃よりずっといきいきしてきましたね。活動の場を提

大岡川クリーンフェスティバルでの川遊び

川の上の綱渡りは大人気、男の子も女の子も挑戦

供するわれわれとしても、やりがいがありますよ」

こうした活動は子どもたちだけではなく、大人たちにもいい影響を与えているようだ。その点について篠崎さんは、

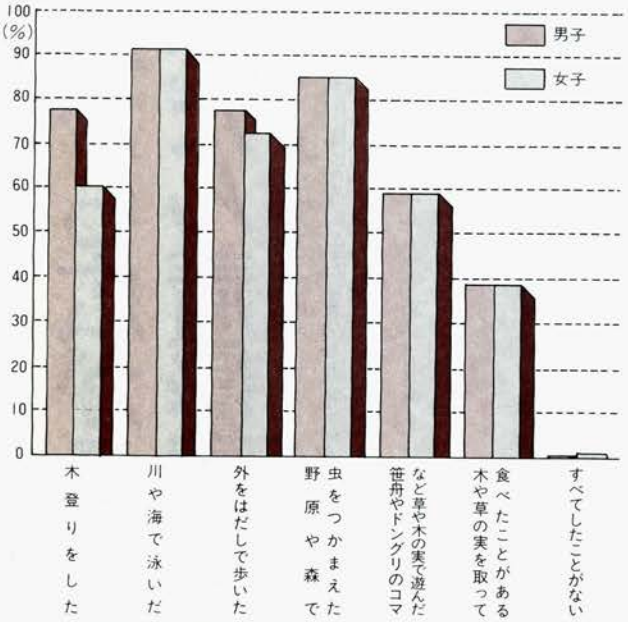
「子どもが伸びるに従って、私たち大人も育てられた、そんな気がしますね。第1に、今まで関心の薄かった地域というものを長い目で見られるようになってきました。子どもたちに将来こうなってほしいから、今、こうしなければならない、とか、地域の重要性をひしひしと感じることが多くなりました。第2に、仕事だけの生活を送っていた頃よりも、いろいろな面で視野が広がってきた。それがまた、仕事にもプラスになっているようです。生活全体のバランスがとれてきたという感じですね」

今後の夢も、多方面へ。やりたいことは次から次へと出てきますよ、と目を輝かせる篠崎さん。

「少し前に、地域の外国人に声をかけて交流会を開催したんですが、それをもっと本格的に進めたいと考えています。将来は子どもだけでなく、お年寄りまでも幅広い層を対象とした本格的なセンターをつくりたいですね。やはり、そういう場がないと、地域の交流もむずかしいのではないでしょうか」

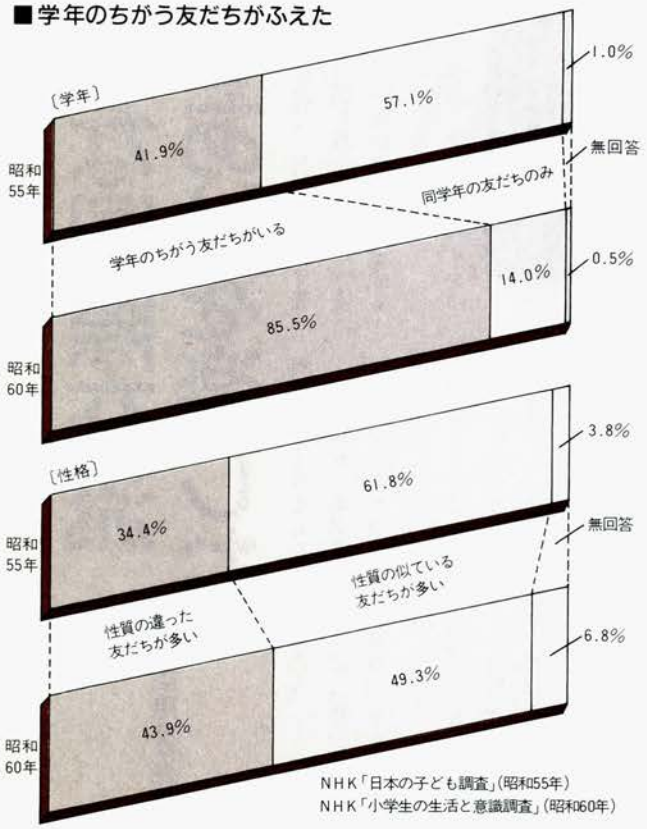
会発足当時はほとんどが独身だった会員も、今では多くが結婚し、父親になった人もいる。これからは、地域の子どもプラスわが子の成長とともにサラリーマンの会も伸びていくだろう。ひとりの父親として上大岡を見つめると、また一つしなければならないことが見えてくるかもしれない。

■子どもたちの自然体験



NHK「小学生の生活と意識調査」(昭和60年)

■学年のちがう友だちがふえた



NHK「日本の子ども調査」(昭和55年)
NHK「小学生の生活と意識調査」(昭和60年)